

# アトピーと向き合う

「小児科医になった20年前には感染症の患者が多かったですが、最近はアレルギーや喘息の患者が多く来院します。生活環境の悪化、食べ物などが影響しているのでは」という山手院長。04年、光市の現地に小児科・アレルギー科を開院後、『アトピーの会』を立ち上げ、アトピー性皮膚炎やアレルギーの子どもを持つ家族らの交流と、同院栄養士による食事指導などを続け、先月で50回を数えた。この会は月1回同院の2階で開かれるが、かかりつけでない人たちにも負担を感じないで参加できるように、院長は時間のあるときにオブザーバーとして陰からサポートする。



山手 智夫 院長

乳幼児の食物アレルギーは、アトピー性皮膚炎やじんましんなどの皮膚症状で見られることが多い。この症状を改善するためには、病院での検査と投薬だけでは限界があり、アレルギーを誘発する食物を除くことが必要になる。しかし、保護者にとって、食材や調理方法を選びながら毎日の献立を作ることは、大きな負担となつてのしかかってくる。会は、食材の入手情報や調理方法の情報交換に加え、気持ちが沈みがちな仲間同士が励まし合える精神的な拠り所ともなっている。

この会を発足したのは、今から十数年前、院長の息子さんが食物アレルギーによる重症のアトピー性皮膚炎を発症したことがきっかけだった。ステロイド軟膏や抗アレルギー剤の処方をして改善されない症状を、食事や生活環境を改善することで自然治癒力を育むことに導いてくれたのは、食物アレルギーの子どもを持つ保護者の会だった。医者が患者の保護者から食事指導を受けた。この自身の経験から、アトピーの会の



必要性を実感したという。

「アレルギーは、普通の病気と違って完治することはありません。いわば、体からの信号です。専門医をはじめ、経験者や栄養士の話を参考にしながら、この信号と上手に係わって欲しい」という。

山手院長が小児科を選択したのは、“人生の最初のまっさらな状態の時に、道をつけてあげることができる”から。「小児科医は魅力的」という院長は、“成長障害”と“アレルギー”という2つのテーマがライフワークだという。

アトピーの会は参加無料(要事前申込)

やまて小児科・アレルギー科

光市浅江1-10-12 ☎0833-72-5041 <http://www2.ocn.ne.jp/~toyamate>